

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4270600325
法人名	社会福祉法人 五島会
事業所名	グループホーム福寿園
所在地 (電話番号)	長崎県五島市吉久木町907-1 (電話) 0959-72-2338

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 11月 25日	評価確定日	平成 21年 2月 19日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	850 円	

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五島中央病院 聖マリア病院 よこやま歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに一步入ると、明るい光が差し込んで中庭が目飛び込んでくる。中庭の木々も年々成長し、12年開設という歴史を感じることができる。ご利用者は、自然の緑を眺めながら野鳥のさえずりを聞き、畑の野菜を収穫しながら、穏やかな日々を過ごしている。「地域にもっと溶け込んでいきたい」という職員の思いのもと理念の見直しを行い、平成20年4月より『地域との交流の中で社会とのつながりを持ち、ご利用者が安心した生活が送れるようになる』という理念を作りあげた。職員は“住み慣れた地域で、ゆとりある空間の中で、自然に人間らしく普通の暮らしを実現できるように…”と日々考えながらケアを続けている。法人として、市内の各町にグループホームを有しているため、ご家族、ご本人のご希望や出身地に合わせて一番馴染まれるであろうと思われるホームをお勧めするようにしている。また母体施設の施設長を中心に行われる法人全体での研修も充実しており、法人の利点を活かして皆で協力してサービスの質の向上に努めている。近くに住宅が少ないという課題もあるが、「五島会」グループで広報誌(はあとケア)を作成する等、地域の核施設としての役割を發揮し続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を活かし、また地域にもっと溶け込んでいきたいという職員の思いをもとに、職員全員で対策を検討し、実践してきた。①理念の見直しを行った。理念の中に地域との関わりを明確に表現することで、地域との関わりが大切さが再確認でき、新たな気持ちも持てるようになった。②地域の行事など、ご利用者の参加の場を増やしていった。③ご利用者の役割を發揮できるように、畑での活動など場を増やしていった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しており、法人全体で積極的に取り組んだ。前回の外部評価を活かして全職員参加の下で会議を開き、理念の大幅な見直しも行った。今回の自己評価については、全職員に『自己評価票』を配布、記入してもらった上で、運営者、管理者が1つにまとめあげた。途中職員の間では「こういう所は今後気をつけよう、努力したよね…」等の意見もあり、日々の業務の振り返りにつながる良い機会となった。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度より、議事録のあり方も工夫し、参加者の意見がわかりやすく記載されている。ご利用者、ご家族、市の職員や民生委員、町内会長をはじめ、消防署や警察の方々にも交代で参加していただいている。「地域の中でドライブに適した場所」のご提案や、「ホーム内に掲示している写真の活用へのアドバイス」など、参加者からご意見をいただいている。誰もが参加しやすく、意見交換が弾む運営推進会議となるような取り組みを続けている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月のホーム便りの他、担当職員よりご家族への個別の手紙も書いて添えている。ご利用者の暮らしぶりや健康状態を月に1回程度は報告している。ご家族からは「安心してます」とのお言葉をいただいているが、管理者は常に「これで充分なのか？」という思いを持ち続けている。また年に2回、母体法人より無記名アンケートを実施している他、来訪時に時間をとっていただき、何か気になることがないかお聞きするようにしている。また直接ホームには言いにくいこともあるのではないかとこの思いから、意見箱を設置している。更に2年前から家族交流会も発足させ、意見が言いやすい環境作りにも配慮している。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の場でいただいた地域の情報(季節の花々情報)も参考にして、地域に出向く機会を増やしている。施設長は、車椅子を使用しているご利用者であっても地域とのふれあいをもつていただきたい、外出が困難であれば、逆に地域の方々に来ていただきたいと考えている。施設長自ら立案し、ホームの裏山の栗の木林に1クラス30名の小学生を招待し、ご利用者と一緒に栗拾いを実施した。その後、子供たちがホームに来て下さり、ご利用者の肩たたきをしてくれる場面もあった。母体施設と協力して、ご利用者と地域の方々との交流を増やす取り組みを続けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にもっと溶け込んでいきたいという職員の思いをもとに、理念の見直しを行い、平成20年4月より『地域との交流の中で社会とのつながりを持ち、ご利用者が安心した生活が送れるようになる』という理念を全職員で新たにつくりあげた。理念の中に地域との関わりを明確に表現することで、地域との関わり大切さが再確認でき、新たな気持ちも持つようになった。理念を見つめながらご利用者1人1人がその人らしく暮らし続けることを支援している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念は現職員全員で一緒に考えて作り上げたもので、自分達の理念ということもあり、1日理念を意識してケアができるよう毎日の朝礼時に唱和している。全職員が理念を再認識できており、理解している。また、ご利用者を出来る限り外にお連れして差し上げたいという気持ちが強くなり、日々実践に努めている。さらに介護目標として、『穏やかな態度で接し、優しく笑顔で声かけできるように心がける』を掲げている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや敬老会等にも参加している。他ホームとの合同で開催するバザーやふれあい会も行い地域の方を招待している。施設長は、ご利用者の方々と地域の方々のふれあいを大切にしたいという思いが強く、ホームの裏山の栗の木林に1クラス30名の小学生を招待し、ご利用者と一緒に栗拾いを実施した。実施前には山道を歩きやすくするため、雑草取りも行なった。子供たちと接することの嬉しさのあまり、涙ぐまれるご利用者の方もおられた。職員も、地域との交流の大切さを改めて実感することができた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解しており、法人全体で積極的に取り組んでいる。前回の外部評価を活かして全職員参加の下で会議を開き、理念の見直しも行った。今回の自己評価については、全職員に自己評価票を配布、記入してもらった上で、運営者、管理者が1つにまとめあげた。途中、職員の間では「こういう所は今後気をつけよう、努力したよね…」等の意見もあり、日々の業務の振り返りにつながる良い機会となった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、市の職員や民生委員、町内会長とともに、消防署や警察の方々にも交代で参加していただくようにしている。会議ではホーム側からの報告や発表で終わらないよう、警察の方には徘徊時の捜索の依頼をお願いしたり、消防署からは火災時の対応、また市の職員からは後期高齢者制度の説明等、具体的な説明をいただいている。誰もが参加しやすく、意見交換が弾む運営推進会議となるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ほぼ毎月、さまざまな職員が制度上の手続きや書類の提出に市担当窓口を訪れ、必要に応じて、ご報告やご相談を行なっている。運営推進会議や行事の時以外にも気軽にホームに寄ってくださるよう、市の担当者にお声かけしている。運営推進会議の回数が重なるにつれ、市の担当者との距離が近くなり、会議終了後の何気ない会話の形で、近況報告や相談ができるようになる等、相談しやすい関係が保てるようになっていく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りの他、担当職員よりご家族への個別の手紙により、ご利用者の暮らしぶりや健康状態を少なくとも月に1回は報告している。また行事が開催される度にお誘いのご連絡を行ない、金銭管理に関しては、来訪時に、出納帳と残高の確認をしていただいている。ご家族からは「安心しています」とのお言葉をいただいているが、管理者は常に「これで充分なのか？」という思いを持ち続けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対して、年に2回、法人本部のほうで、無記名アンケートを実施している他、来訪時に時間をとっていただき、何か気になることがないかお聞きするようになっている。また直接ホームには言いにくいこともあるのではないかとのおいから、意見箱を設置している。更に、昨年、家族交流会も発足させ、話がしやすいようにとソーマン流しを行ないながら、楽しく食事を摂るなどの環境の配慮も行った。今後も年間の行事以外にもご家族を招待する行事を企画しており、ご家族がご意見を表せる機会を増やしていく取り組みを続けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務希望には極力応じ、個人面談を行ない、悩みを聞いたり、食事を開く等、働きやすい環境作りに努めており、ここ2年間は退職者はいない。異動や離職を必要最小限に抑えることの大切さを施設長自身が理解しているため、施設長自らホームのミーティングに参加することもあり、さらに各職員から活発な意見も聞くことができている。新規職員が入った時は、ご利用者やご家族に紹介し、ケアに関しての細やかな指導、情報伝達を行ない、ご利用者の混乱を最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとしても、法人としても職員研修には力を入れており、2か月に1回、法人全体で研修を行なっている。外部講師を招くこともあり、また施設長自ら外部研修に行き、その内容をもとに内部研修を行なうこともある。法人本部では各職員の研修育成計画が作成されており、職員の能力に応じて平等に研修が受けられるよう配慮されており、全職員が学びの場を持っている。また服薬管理や健康管理等、ホーム内独自での勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者協議会に入っており、協議会主催の研修会や事例の合同検討会に参加しているが、現在の協議会は、参加できる者が職種、立場で限定されており、一般の職員が参加することはほとんどない。同法人内の交流でもいろいろと気付かされることも多く、今後は法人外のホームとの交流にも力をいれていきたいと考えている。	○	ホームとしても、相互訪問といった職員レベルでの交流を行うことを希望しているとのことで、行事案内等を他のホームへお送りしたり、交流会の呼びかけも実施している最中である。今後も引き続き、協議会へ提案する等、法人外の他のホームとの相互訪問の実現に向けて取り組みを行なっていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合は、法人本部の相談員とケアマネが面接に行き、その後、ご本人、ご家族に見学に来ていただき職員と関わりを持っている。法人として、市内の各町にグループホームを有しているため、ご本人、ご家族の希望や出身地に合わせて、一番馴染まれるであろうと思われるホームをお勧めしている。ご利用前にホームのケアマネが馴染みの関係を築いておけるよう努力している。入居後は、1日も早くホームの暮らしに慣れていただけるよう、冗談を交えた会話の工夫やご家族に頻りにホームへ足を運んでいただく等を繰り返し行なっている。いただいた情報を活かしながらケアを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土料理の作り方、季節に応じた料理、畑の野菜の作り方、方言、味付けのコツ等を日常で教えていただいている。一緒に笑い合い、時に「ご飯がいつも美味しいよ、ありがとう」や「夜勤1人で大変ね」等の労いのお言葉をかけていただくこともあり、ともに支えあう関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日職員は、ご本人の思いを知るための取り組みを続けている。日々のケアについては、何事につけ、問いかけの形で言葉かけをし、ご利用者の意思を確認するようにしている。従来より法人として介護計画の作成には力を入れており、法人独自のアセスメントシートを使って情報収集を行なっている。また、計画作成担当者は、他ホームと兼務しているが、毎日2～3時間は滞在するようにしており、ご本人やご家族からのご希望、ご要望をしっかりと伺い、職員と情報を共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の外部評価でのアドバイスを踏まえ、ご利用者本位の計画作成に努めている。内容・表現ともに、「地域で暮らす」視点も含めて、ご利用者本位で立てられており、現在行なっているケアは、ほぼ記載されている。計画作成担当者が兼任のため、作成にあたっては、ホーム職員と話し合いをしており、ご本人、ご家族、主治医や法人内作業療法士、他ケアマネジャー等に相談し、意見をいただきながら作成している。また手順に添ったサービス内容がしっかりと細かく記載されている介護計画書に仕上がっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった時や新たなご要望が挙がった時は、予定時期の前でも見直しをしている。変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いを、月2回のカンファレンスで行なっており、全ご利用者について月1、2回程度、検討を行なっている。またケアプランの内容に沿った記録も記録方法の工夫により毎日細かく残すことができおり、確実に実施状況の把握もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の要望に応じて、通院介助、友人宅や馴染みの美容室、お墓参りへの送迎等を行なっており、地域行事(お祭りなど)にもお連れしている。また地域の方々からの介護の相談等にも応じている。ご利用者が入院された時は、ホーム職員や法人本部の職員(施設長自身)がお見舞いに行くことで、早期退院のためのお話を病院側と検討する等、ご利用者の入院中の混乱を最小限にすることに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、全ご利用者をホーム側(主にケアマネ)が通院介助を行っている。また入居後の主治医をどうされるかは、入居時にご本人、ご家族としっかり今後のことを考えながら検討し、決めていただいている。変化があるなしに関わらず、受診結果は毎回ご家族へご報告しており、特に医師から新たな指示があった時等は速やかにご報告している。医師の診療情報提供書を持っているため、スムーズに連携が図れた上で受診できており、適切な医療を受けられる支援が継続できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご利用者、ご家族が希望される限りは、ホームでお世話させていただきたいとの思いはあるが、医療的処置が必要になった場合は、現状ではホームでの対応に限界があるため、医師、ご本人、ご家族、ホーム職員等で話し合いを行ない、今後の方針を決定するようにしている。多くは医療機関への入院や併設施設への入所という形で対応させていただいているが、その旨は入居時に説明している。ホームでの暮らしをできるだけ長く継続していただけるよう、体操や広い廊下を使っての歩行訓練を採り入れ、健康維持を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者との会話の中で、ご利用者が馴染まれているとの理由から、職員が方言を使うことはあるが、目上の方に対して失礼な表現や馴れ合い過ぎる言い方にならないようにしている。言葉遣いについては職員同士お互い注意し合っており、時に話し合いをすることもある。個人情報取扱いについてもホーム内でルールを定め、また、法人全体の研修会も実施されており、プライバシーの確保の徹底に全職員が努めることができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを保つために、ある程度の日課は決めているが、ご利用者が好まれないことを無理強いすることはせず、各個人のペースで過ごしていただいている。急な外出希望にも極力応じるようにしているが、難しい場合はご説明させていただき、別の日を提案して了解いただくようにしている。意思表示が困難なご利用者についても、声かけやスキンシップを行なうことで、気持ちよく過ごしていただくこと、また思いを出来る限り汲み取れるようにすることを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成、食材の買出し、下ごしらえ、味見、配膳、下膳、食器洗い、片付け、テーブル拭き等のお手伝いをしていただいている。畑の野菜と一緒に収穫に行くことも日常的に行なっている。旬の食材やホームの畑で採れた物を利用したり、切干し大根、山菜の煮付け、手のひら団子等、ご利用者が馴染まれているおかずやおやつをメニューに採り入れたりしている。また、手作り弁当を作ってドライブや花火大会に行ったり、時には近くのうどん屋等へ外食に行く機会もあり、ご利用者のお食事が楽しみなものになるように日々取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者ごとに、1日置きに入浴をいただいているが、ホームとしては毎日お風呂を沸かしているため、ご希望があれば対応できる状態である。時間帯についても、原則午後に行っているが、ご希望によっては午前中に入らせていただくこともある。羞恥心や自尊心への配慮も行なっている。拒否が強い方もおられたが、まずは足浴や清拭を行ない、それからシャワー浴、湯船に入ってから入浴と、徐々に進めたことで、今ではスムーズに入浴していただけるようになった。季節毎の昔ながらの入浴を楽しんでいただくために、みかんの皮を使用したり、また時々温泉にもお連れして差し上げている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯物たたみ、裁縫、また畑の野菜の収穫等、個人個人の能力に合わせた役割を担っていただいている。皆で楽しめるレクリエーションや行事を行う他、ご利用者ごとに好まれることや得意なことを把握し、その日の気分に合わせて好きなことを楽しんでいただいたり、得意なことを発揮していただく場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、外泊してのお墓参り、デイケアの知人に会いに行く等、外出の機会を作っている。また美容院や薬局といったご利用前からの馴染みの店等、ご利用者にとって大切な場所への外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21:00～6:00までの時間帯は防犯上の都合で施錠しているが、基本的に敷地の出入口、玄関、裏口すべてについて、日中は施錠していない。ご利用者が落ち着かれなくなる時間帯や兆しを予め把握し、職員同士で声かけをし合いながら、見守りに隙ができないよう注意している。その結果、ホームの敷地は広いが、敷地から出られる前に併設施設の職員が気づくことができる等の連携も保っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得ながら、ご利用者にも参加いただき、年に2～3回、通報、消火、避難訓練を行っている。また『グループホームにおける火災時の対応について』の研修にも消防署の方に講師としてきていただいている。また消防署と消防団員には火災避難時のご利用者の避難場所の確保と避難時の介助も依頼している。災害時備蓄についても、同法人施設からの援助もできる体制も整えており、また隣接する施設(法人外)に対しても食料や水等の援助をいただけるような契約も交わしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材、調理方法、盛り付けの方法を、嗜好に合わせて個別に対応している。以前献立は、併設施設の管理栄養士が作成していたが、昨年からホーム職員が考えて作成し、定期的に管理栄養士にアドバイスや最終確認をもらっている。ご利用者の体重や活動量を管理栄養士に伝え、必要なカロリーが摂れているかの確認等もとれている。また、毎日、食事・水分ともに、摂取量の把握・記録を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隅々まで掃除が行きわたり、明るい空間が作られている。建物中央の中庭の木々も年々成長し、自然の緑を眺めながら過ごせており、中庭を囲む回廊式の廊下は、ご利用者が散歩するのに絶好の場となっている。広い食堂兼居間は、ご利用者全員が、ゆったりとソファに座ることができている。観葉植物や手作りの飾り物がさりげなく置かれ、家庭的な柔らかな雰囲気が漂っている。来訪者の方からも「きれいですね」「明るくていいですね」との感想をいただけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、使い慣れた物や思い出の物をお持ちいただけるようお願いしている。衣装ケースやテーブルといった家具、使い慣れた日用品、孫やひ孫の写真や位牌、大切にしているぬいぐるみ等が持ち込まれている。使い慣れたものを活かしながら、日々ご利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		